

## 第3部 希望の家の運営

### I 令和2年度事業総括

#### 第1 運営方針

利用者の個別性を大切に、公益性のある法人が運営する施設として、地域の方々のご協力に支えられながら、利用者は元より市民に信頼される施設運営に努めました。

また、利用者の障がいの特性を理解し、一人ひとりに対して健康的で楽しい日中活動を提供しました。

#### 第2 重点事業総括

##### 1 希望の家3施設間の交流

個々の利用者に合った施設を選べるように、活動の合同企画や体験交流を行い、施設間の垣根を低くする活動をすすめました。緊急事態宣言発出などで一時期中断はしましたが、利用者自治会やイベントなどは、インターネットを使ったりリモート会議を設定して実施しました。

##### 2 利用時間終了後の延長利用

ご家族の事情等による利用時間終了後の延長利用の希望が増えていましたので、すでに行っている希望の家深大寺に続き、調布市希望の家でも利用方法を検討し実施しました。

##### 3 職員の育成とより良い支援

事故防止やより豊かな支援につなげるため、気づきシートの活用を習慣化し、ヒヤリとした事例や新たな発見などを積み重ね、日々振り返り会議で周知・共有しました。

また、新型コロナウイルス感染症予防においても、関係機関との情報交換をして対策を講じました。

## II 個別事業

### 第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
		自主 寄他	補助	委託 市	利用 ○
(1)	調布市希望の家運営受託事業				

#### 結果の概要

- 新型コロナウイルスへの予防に努めるべく、施設内のレイアウト変更や活動内容の見直し、消毒の徹底等に取り組んだ。
- 令和2年4月7日～5月25日までの第1回緊急事態宣言中については、分散通所とするなど、施設内の滞在人数を減らすことで新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。自宅待機をされていた利用者に対しては、定期的に電話をすることや、感染防止に配慮しながら玄関先まで訪問する等の配慮をした。
- 令和3年1月8日～3月21日までの第2回緊急事態宣言中については、通常通りの開所を維持しつつ、外出活動の制限や、教室を中止する等、外部関係者との接触機会削減に努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者やご家族の高齢化による問題も関係機関と連携しながら取り組んだ。
- 独自の利用者・家族アンケートを行い、第三者委員に講評をいただいた。

### 1 利用人数

#### 結果の概要

- 調布市希望の家は利用者24人。新規利用者として4月から2人が入所した。
- 調布市希望の家分場は利用者11人

#### 実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数(人)	24	24	23	23	23	24	24	23	23	24	24	24	283	23.5
	開所日数(日)	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	244	20.3
	のべ出席人数(人)	268	175	350	468	424	437	480	417	436	385	395	471	4,706	392.1
	出席率(%)	53	40	69	92	92	91	90	95	94	84	91	85		81.3
調布市希望の家分場	利用人数(人)	10	9	10	10	10	9	9	9	9	9	9	10	113	9.4
	開所日数(日)	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	244	20.3
	のべ出席人数(人)	140	132	175	191	153	172	191	161	171	150	153	205	1,995	166.1
	出席率(%)	66	81	79	86	76	95	96	94	95	87	94	89		86.5

利用者年齢構成等（令和3年3月31日現在）

年 齢	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19歳	2人	0人	2人	0人	0人	0人	2人
20～29歳	6人	3人	9人	1人	2人	3人	12人
30～39歳	4人	0人	4人	1人	0人	1人	5人
40～49歳	3人	1人	4人	1人	0人	1人	5人
50～59歳	0人	1人	1人	4人	2人	6人	7人
60歳～	1人	3人	4人	0人	0人	0人	4人
計	16人	8人	24人	7人	4人	11人	35人
平均年齢	32歳	45.8歳	36.6歳	46.2歳	40歳	44歳	38.9歳

利用者障害支援区分構成（令和3年3月31日現在）

障害支援区分	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	合計	男	女	小計	合計
区分1	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分2	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分3	0人	3人	3人	0人	0人	0人	3人
区分4	6人	2人	8人	3人	0人	3人	11人
区分5	7人	1人	8人	2人	2人	4人	12人
区分6	3人	2人	5人	2人	2人	4人	9人
計	16人	8人	24人	7人	4人	11人	35人

## 2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

### 結果の概要

- 各教室活動や作業療法活動など、専門講師による活動を継続的に行うことで、健康維持向上や生活リズムの安定につながった。
- 健康維持のため、ラジオ体操やウォーキング等の運動の機会を提供した。

### 実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝ラジオ体操	週1回
ウォーキング	不定期・1時間～2時間
体操教室	月1回・3時間（1時間×3グループ、ダンスが中心の活動） 体力や年齢を考慮したグループ別で行っている
のびのび体操	月1回・3時間（1時間×3グループ、ストレッチが中心の体操） 体力や年齢を考慮したグループ別で行っている

水泳教室	【事業中止】
教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月1回・1時間
ジャンベ教室	月2回・1時間（20分×3グループ、打楽器の演奏）
運動会	（福祉作業所等連絡会主催運動会に参加）【事業中止】
音楽鑑賞会	プロミュージシャンを招いて実施【事業中止】
年度末お楽しみ企画	新型コロナウイルスの影響により、本場・分場での合同実施を中止。施設ごとに企画を実施した。 本場：3月12日（本場と分場をZOOMで繋いでの交流会。昼食は弁当を購入。） 分場：3月12日（本場と分場をZOOMで繋いでの交流会）
高齢デイ 「楽しい会」	50歳以上を対象にした月に1回の活動。（緊急事態宣言中は実施せず。） 本場：対象利用者6人。プログラムをメンバー自身が決め、鳴子の製作やスポーツなどを行った。 分場：新型コロナウイルスの影響により実施なし。

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月1回・1時間程度、作業療法士による運動機能維持などの活動。

### 分析・課題

- 利用者の年齢は10～60歳代の幅広さがあり、年齢層や体力面、特性・相性に応じた利用者のグループ分けによるプログラムの検討が必要となる。
- 体重の増加が課題となる利用者が多く、今後、運動量の確保を目的とする活動を増やすことが必要と思われる。
- 緊急事態宣言中は教室を中止するなど、コロナウイルス感染拡大への配慮をしながら実施した。

## 3 生産活動

### 結果の概要

- 企業受注では榮太樓総本舗の和菓子の梱包の他、鈴木螺子工業のネジの組み立てを受注した。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃、封入等の受注は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングを実施した。
- 新型コロナウイルス感染拡大により各種イベント等が中止となり、深大寺曼珠苑ギャラリーでの販売会を除き、自主製品の販売会を行うことができなかった。
- 新たな業務として、フードバンク調布より食品運搬業務を受託。週1回、総合福祉センターおよび市民活動支援センターに集まった食品をフードバンク調布まで運搬している。
- 新たな古紙回収先として、各地域福祉センター、しばさき彩ステーション、ちょうふだぞう、調布メモリードホール等の回収を始めている。

### 実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、ねじの組み立て
自治体からの受託	封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、ごみカレンダー、地域活動情報誌）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、くるくる希望の虹など
常設委託販売先	総合福祉センター
イベント販売	深大寺曼珠苑ギャラリーのみ開催（その他、例年出店している地域のつどい、パルコ前販売会、小地域交流事業、福祉まつり、市役所ロビー展示会等は中止）

### 分析・課題

- 利用者が様々な経験を積む機会としても、自主製品の幅を広げていくことが必要。新たな自主製品の開発を行っていく。
- 新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止により、自主製品販売の機会が大幅に縮小した。令和3年度も引き続きイベント等の中止が予想されるため、これまでとは違った形での販売の検討も必要。

## 4 昼食提供

### 結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供。肉禁やアレルギー食、きざみ食など個別の対応も行った。

### 実績等

種類	回数／内容
配達弁当①	原則として毎昼食。
配達弁当②	月1回、福祉作業所の弁当を注文。（調布市希望の家分場）
カレーの配達	月1回、市内のかれーやより配達。

### 分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。

## 5 健康診断、健康管理

### 結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（調布市希望の家・調布市希望の家分場7回）を実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。

- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。
- 利用者のウイルス性感染の予防に努め、特に新型コロナウイルス流行への対応として、こまめな手指消毒の促しや毎日の検温、施設内の換気等を行った。
- 本場にて、嘔吐物処理の訓練を2回行った。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、定期的な歯科受診のアドバイスを受けた。
- 専門家への受診も行い、専門家からの助言を職員間で共有した。
- 健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、困りごとを相談し、課題を共有する機会となった。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。

### 実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	10月26日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、視力、血液検査、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。 10月28日/40歳以上を対象に通院し、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。 10月29日（調布市希望の家本場・分場実施）
歯科健診（調布歯科医師会）	12月9日（調布市希望の家・分場）施設内で実施。
聴診、健康相談（嘱託医）	調布市希望の家・分場年7回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス
PCR検査	2月25日（調布市希望の家・分場）施設内で実施

### 分析・課題

- 高齢であることや持病があるなどで重症化リスクの高い利用者が多いため、あらゆる感染症対策を行っていく必要がある。調布市とも協議しながら対応していく。
- 嘱託医との連携を深め、医療面・精神保健面の知識を職員にフィードバックする取り組みが更に必要である。
- 家族の高齢化により情報共有が難しいこともあるため、関係機関も含めて健康管理を行っていく必要がある。
- 災害時に備えて預かっている予備薬について、服薬の変更時にもスムーズに対応できるようにしていく。

## 6 当事者活動の支援

### 結果の概要

- 利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。
- \* 利用者自治会（利用者で構成する会）

コロナ禍の為、テレビ会議システムを活用し、自治会では3施設の活動報告等を行い、情報交換や顔合わせの場となった。利用者自治会長は運営委員としても活躍した。

\* 家族連絡会

新型コロナウイルス感染拡大への配慮から、全て中止となった。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月1回（3施設合同）／行事や活動の計画など
家族連絡会	年4回／情報提供、情報交換、意見聴取、家族懇談会など【事業中止】

分析・課題

○利用者自治会については、テレビ会議システムを使って3施設をつなぐことで、新しい形で交流することができた。

## 7 送迎事業

結果の概要

- 自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。
- 利用者の体調や安全面を考え、迅速に送迎サービス対応に努めた。
- 個別の配慮を要する利用者やショートステイを利用する利用者に個別送迎を実施した。
- 新型コロナウイルスに対応し、密を避け、乗車人数を減らして運行した。車内の消毒実施を徹底し、感染予防のためビニールシートの設置を行った。

## 8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- ヒヤリ・ハットの報告を増やし、より良い施設運営に向けた取り組みとして、毎日の各施設での振り返り時に出しあった意見を「気付きメモ」として記録し、月1回の会議で共有を始めた。

実績等

- 第三者委員会について、例年は年間2回実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大により、今年度は3月に1回のみ、オンライン形式で実施した。事故、ヒヤリ・ハット、苦情、要望等についての情報共有、課題解決に向けて意見交換した。
- 毎日の支援でのヒヤリ場面や、次回同様の場面で気を付けるべきこと等を書き留める「気付きメモ」について、年間を通して本場は133件、分場は31件、深大寺は77件の記録を残した。

### 分析・課題

○第三者委員より、「気付きメモ」について多くの件数を記録していることに関して、風通しの良い職場であることが表れているとの評価があった。同時に、「気付きメモ」を分析し、支援にいかすことができる記録にしていくことが必要であるとのアドバイスを受けている。

## (2) サービス評価

### 結果の概要

○希望の家独自のアンケート調査票を用いてサービス評価を実施した。集計を行い、第三者委員の講評を受けた。

### 事業評価

項目	内容
利用者アンケート調査	利用者本人へ書面によるアンケート調査。本人が答えるか、家族に相談しながらもしくは本人の気持ちを推察して回答。4人は送迎員に聞き取り調査をしてもらい回答した。
家族アンケート調査	家族へ書面によるアンケート調査。
第三者委員会	職員、第三者委員による講評会。

### 分析・課題

○利用者・家族ともに概ね現在の希望の家のサービスに満足しているという評価を得た。  
○利用者、家族から自由意見でいただいた回答や対応については様々な場面で発信できるようにしていく。

## (3) 運営委員会

### 結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大により、年4回実施計画のところ、春・夏時期の開催は見送り、11月と3月に計2回開催した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。  
○希望の家3施設の前期事業報告及び新型コロナウイルス感染症対策の状況報告をし、日中一時支援（延長支援）について、利用者・家族アンケートについて、また次年度事業計画について意見交換を行った。  
○開催中止とした春・夏時期に1回、各運営委員に希望の家3施設の近況報告及び新型コロナウイルス感染症対策の状況を通知した。

### 実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）

委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	渡辺 益男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	武田 敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課長補佐
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	大久保 摂	社協理事

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和2年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	11月25日(水)	正副委員長の選出、希望の家各施設の上半期報告、日中一時支援（延長支援）について、令和3年度予算（案）について	12人
第2回	3月17日(水)	利用者・家族アンケート集計結果報告、令和3年度事業計画について、令和3年度予算について	12人

分析・課題

- 開催日の調整が至らず、運営委員会での次年度の事業計画提示が、理事会ですでに承認された後になった。運営委員の意見を計画に反映させることができるよう、開催時期に配慮していく。
- 利用者・家族の高齢化や、希望の家3施設の一体的な施設運営、また、重度障害者の受入れに伴う利用定員の課題等、希望の家全体で検討すべき内容も多いため、今後も合同で実施する。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- 新型コロナウイルスの流行により各種研修会等が中止となるが多かったが、オンライン参加が可能なものに関しては積極的に参加した。
- 重い障がいのある利用者に関わるため、発達障害や強度行動障害についての研修へも積極的に参加し知識を深めた。

実績等

研修会等	主催
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
管理職・施設長研修（会計）	東京都福祉人材育成センター
東京都サービス管理責任者基礎研修	公益財団法人東京都福祉保健財団

強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
発達障がい者支援の基本	調布市福祉人材育成センター
移動・移乗の技術研修	調布市福祉人材育成センター
普通救命AED講習	東京消防庁
安全運転研修	トヨタドライビングスクール
『働く「重度」障害者が変える社会～共生社会は何を生み出すのか～』	就労支援フォーラムNIPPON@フクオカ
高齢の知的障害者の支援	都通研
コロナ禍の福祉避難所について考える	東京都地域公益活動推進協議会

### 分析・課題

○内部で、嘔吐物処理訓練や車両誘導訓練、あるべき支援についての意見交換等を実施した。

### (5) 事業・建物管理

○調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。

○新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言があったことや、希望の家分場の改修工事により一時的に2階を分場の代替活動場所としていたため、令和2年度のほとんどの期間に関して、2階の貸し出しを中止していた。

### (6) 危機管理体制の整備

#### 結果の概要

○衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や環境整備に努めた。

○新型コロナウイルスへの対応として、調布市と協議しながら、人との接触を最低限にするための事業・行事等の縮小や、消毒・換気の強化等を行っている。

○毎月1回、火災や地震を想定して、各施設で避難訓練を実施した。

## 9 地域への働きかけ

#### 結果の概要

○新型コロナウイルスの感染拡大により、希望の家としてこれまで参加してきた地域のイベントや販売会等が中止となった。

○調布市希望の家としても感染拡大防止のため、地域のつどいを中止とした。

#### 実績等

活動名	内容など
地域のつどい	【事業中止】
季刊誌、事業概要の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設などに配布した。
施設体験日の実施	けやきの森の平日振替休日に、市内在住の知的障がいのある方の施設

	体験の受け入れを行った。1人の参加。
作業製品共同販売会	曼珠苑ギャラリー販売会のみ参加。その他は中止となっている。
小地域交流事業への参加	【事業中止】
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を市と協議している。
会議室(本場)の貸出し	コロナウイルス感染拡大防止及び、希望の家分場の工事による代替利用のため、中止

## 分析・課題

- 新型コロナウイルス感染拡大により、地域とのつながりを持てる機会が大幅に減少してしまった。こうした状況は長期化も予想されるため、これまでとは違った方法で地域とのつながりが持てる方法を検討していくことが必要。

## 10 その他

### (1) 個別支援・日中活動の充実

#### 結果の概要

- 個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリング、個別支援計画の振り返りを行った。
- ご家族が対応できない場合や利用者の状況に応じて、関係機関と連携し通院同行を行った。
- 関係機関と連携し、利用者のサービス利用の拡大や他施設への移行に丁寧に対応した。
- 利用者の活動で作上げた作品を、活動の講師の協力を得ながら「手作り展」の準備にも力を入れた。
- 新型コロナウイルス感染拡大により外出等の活動が制限されたが、代わりに室内でタブレット端末を操作して楽しんだり、作業の練習として様々な自立課題に取り組んだりなど、過ごし方を工夫して活動した。

#### 分析・課題

- 「手作り展」は毎年好評だが、日頃の作品をどのように生かしていくかが課題である。
- 福祉サービスや医療、グループホーム等の関係機関との連携を強化し、利用者・家族への情報提供を更に進める必要がある。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族も含めた見守りや緊急対応が一層必要になる。
- 新型コロナウイルス流行下であっても取り組むことができる活動を充実させる必要がある。

### (2) 広報

#### 結果の概要

- 個人情報の保護を徹底するため、本人及び家族の同意を得た上で、広報への写真掲載を行った。
- 今年度季刊誌は3回発行し、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
- 季刊誌の紙面に活動や行事の写真に掲載したことで、利用者・ご家族、市民に好評を得た。

○ふくしの窓をはじめ市報等で、行事関係などの周知を行った。

### 実績等

種 類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ。
季刊誌	年3回／行事や活動、販売会の売上げ報告など。
ホームページ（社協 HP 内）	地域のつどいが中止だったこともあり未実施。

### 分析・課題

- 季刊誌は、読み手の立場に立ち、手に取って読みやすい紙面を意識して制作に取り組んだ。今後は、カラー印刷を行いより様々な人が手に取ってみたいと思える紙面を目指していく。
- 地域への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的にネット媒体も活用していく。

### (3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

#### 結果の概要

- 近隣のボランティアや協力員により、利用者支援や行事運営のサポートをして頂いた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや、地域での理解者や新たなつながり作ることができた。
- けやきの森学園からの実習生は、緊急事態宣言により上半期の受け入れが難しかったため、下半期に集中しての受け入れであった。

### 実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	3人	作業補助など
地域のつどい（年1回）【事業中止】	0人	
水泳教室【事業中止】	0人	
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
体操・音楽・ジャンベ教室・アート教室・クラブ講師等	7人	専門協力員等、利用者の付き添い
社会福祉士実習生	0人	
府中けやきの森学園からの実習生	7人	進路検討のための体験利用
合計	19人	

## 第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主 他	補助 市都	委託	利用 ○
(2)	希望の家深大寺管理運営事業				○

### 結果の概要

- 新型コロナウイルス感染症が蔓延していく中、これまでと変わらずに、安心して通所していただくための施設環境づくり、新たな活動プログラムの構築等に努めた。
- 令和2年4月7日～5月25日までの第1回緊急事態宣言中においては、分散通所とするなど、施設内の滞在人数を減らすことで感染拡大防止に努めた。分散通所期間中は、自宅待機日であった利用者世帯には電話で安否・状況確認を取るなどして、健康面の確認を徹底した。
- 令和3年1月8日～3月21日までの第2回緊急事態宣言中においては、通常通りの開所を維持しつつ、多くの人々が頻繁に出入りする場所への外出活動は制限し、講師による教室活動も中止にするなど、外部との接触機会を極力減らすよう努めた。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。
- 独自の利用者・家族アンケートを行い、第三者委員及び運営委員会に講評をいただいた。

## 1 利用人数

### 結果の概要

- 希望の家深大寺の利用者19人（年度開始時点）。新規利用者として4月から1人が入所した。
- 10月に1人が逝去のため、3月末に1人が他市グループホーム入所のため、退所した。

### 実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18		18.5人
開所日数(日)	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243	20.3日
のべ出席人数(人)	313	316	390	360	320	331	368	314	338	310	270	343	3973	331.1人
出席率(%)	78	92	93	90	84	87	93	92	94	91	83	83		88.4%

利用者年齢構成等（令和3年3月31日現在）

年齢	男	女	小計
～19歳	1人	0人	1人
20～29歳	7人	3人	10人
30～39歳	2人	1人	3人
40～49歳	1人	1人	2人
50～59歳	1人	0人	1人

60歳～	0人	0人	0人
計	12人	5人	17人
平均年齢	27歳	30.6歳	28.8歳

利用者障害支援区分構成（令和3年3月31日現在）

障害支援区分	希望の家深大寺		
	男	女	合計
区分1	0人	0人	0人
区分2	0人	0人	0人
区分3	0人	0人	0人
区分4	0人	0人	0人
区分5	4人	0人	4人
区分6	8人	5人	13人
計	12人	5人	17人

## 2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

### 結果の概要

- 専門講師による体操教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、各利用者が参加しやすいよう、グループ構成、活動時間等にも配慮して行った。
- 感染症対策のため、4月中旬から6月末まで、及び1月中旬から3月中旬までの期間、専門講師による各教室は中止としたが、継続的に実施することで、利用者の健康面の維持向上だけでなく、生活リズムの安定にもつながった。
- マスク着用が苦手な利用者も多くいる中、少しでも多くの運動の機会を提供できるよう、なるべく人が少ない大きな公園等でのウォーキング活動を増やした。
- 一方、マスク着用に慣れていくためにも、他者も行きかう場面での外出活動時など、限定した時間・場所でマスク着用を促していくことも行った。

### 実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝のラジオ体操	毎日朝・5分
ウォーキング	週1回以上の実施
体操教室	月1回・1時間×2チーム（講師活動）
水泳教室	月1～2回・40分×2～3チーム（講師活動、8月～11月に実施）

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月2回・1時間（講師活動、ピアノ伴奏による合唱・合奏）

ジャンベ教室	月2回・1時間（講師活動、みんなで打楽器を自由に演奏）
運動会	【事業中止】
音楽鑑賞会	【事業中止】
年度末お楽しみ会	感染症対策のため、ピザ専門店でピザをテイクアウトした。

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム（講師活動、創作及び運動機能維持などの活動）
入浴活動	月1～3回・30分（希望制による個別活動、身体整容と気分転換を兼ねて、施設内の浴室で実施）

### 分析・課題

- 各利用者の興味・関心、体力面、特性・相性に応じてグループ分けをし、各種プログラム活動の提供をした。より積極的に参加できるように、活動提示の仕方や環境づくりに検討が必要。
- 7、8月はプールの団体予約ができなかったため、それに代わる活動として、総合福祉センター浴室での入浴活動を実施した。今後も利用客が集中する夏季にプールの団体予約が取れないことが想定されるため、その場合の代替活動に検討が必要。
- 講師による活動を中止とした時期があったが、利用者の健康維持向上と生活リズム安定のためにも、コロナ禍の中でも安心して実施できる方法の検討が必要。実際に今年度において、職員が講師替わりとなって、少数グループで行うミニ体操教室のようなことも行った。

## 3 生産活動

### 結果の概要

- 企業からの受注（ねじの組み立て・採便管の封入）により、年間を通して安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。
- 作業所等連絡会の共同受注により、2種類のポスティング作業を実施した。
- 今年度より、調布市希望の家が受注している公園清掃も、一部協力して行うようにした。

### 実績等

企業等からの受注	ねじの組み立て、採便管の封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓、地域活動情報誌）

### 分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として提供することができた。利用者によっては、日を追うごとに出来る工程が増えた方もいた。
- 受注がなく作業活動が提供できなくなった時に、これに代わる施設内での日中活動が少ない。生活介護施設として、作業活動だけではない日中活動を豊かにする取り組みの検討が必要。

## 4 昼食提供

### 結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食、刻み食、おかゆや軟飯に対応して提供した。
- お楽しみとして月1回の出前や、「ミニ調理」（お楽しみ調理）を実施した。施設の庭で栽培した野菜を使つての調理や、炭火による本格的なピザ釜を使つて焼いたピザは好評だった。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、「ミニ調理」では衛生面に配慮し、調理は職員のみが行い、利用者が自身の食べる分のみであるが一部調理を行うことで対応した。また緊急事態宣言発令後は、多くの利用者が「ミニ調理」をお楽しみにしていることもあり、施設内での調理は中止し、飲食店からのテイクアウトで対応した。

### 実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
カレーの配達	月1回（第3水曜日）、市内のかれーやより配達。
出前の実施	月1回／近隣の飲食店からメニューをチョイスし、選択制で注文を受け出前を楽しむ。

### 分析・課題

- ミニ調理では「自分のものは自分で作る」をテーマにしていたため、感染症対策に取り組みながらも利用者が少しでも楽しみながら参加できる事を目標として、実施することができた。
- 加齢による咀嚼・嚥下機能の低下等を考慮した食事形態や食事量について、必要な方とは家庭とも相談し検討したうえで、適宜変更した。
- 今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みながらも、利用者の楽しみでもある食事の場を、いかにしてバリエーション豊かに提供していくかが課題である。

## 5 健康診断・健康管理

### 結果の概要

- 緊急事態宣言を受け、例年5月に実施している健康診断は10月に実施した。
- 健康相談を6回実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。
- 健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、率直な相談から、課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診などのアドバイスを受けた。
- 感染症対策のため、こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れ

る箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。

○感染症対策として職員に限らず、全ての来所者にも手指消毒や検温を実施した。

### 実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 (多摩川病院)	10月5日／施設内で身体測定、検尿(自宅にて採尿)、胸部X線、血液検査、血圧測定、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査を実施。40歳以上の利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 (看護師)	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。 10月30日に施設内で実施。
歯科健診(調布歯科医師会)	1月26日に施設内で実施。
健康相談(嘱託医)	年6回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談およびアドバイス。
PCR検査	2月26日に施設内で実施。利用者、職員共に全員陰性。

### 分析・課題

○全職員が常時マスクを着用した。また、マスクをすることができる利用者には施設内や外出時にマスクの着用を促した。マスク着用が苦手な利用者も多くいるため、今後は少しでも慣れていけるように、限定した場面・時間での着用を促す機会を増やしていく。

○嘱託医と連携をとり、家族や職員の相談、利用者の健康管理に役立てた。コロナ禍の中、感染症対策の構築とともに、各利用者のわずかな体調変化にも気づき対応していけるよう、より職員間での情報共有と嘱託医との連携を図っていく必要がある。

## 6 当事者活動の支援(調布市希望の家と共通)

第1 調布市希望の家 6 当事者活動の支援(第3部のP6)に同じ

## 7 送迎事業

### 結果の概要

○希望する利用者を対象に実施した。結果、全員に実施した。

○ショートステイなどを利用する場合、その施設まで送迎を行った。

○利用者やその家庭の状況によっては、個別での送迎にも対応した。

○感染症対策のため、運行時の車内の窓は、一部開けておくようにした。従来から、各車両は席にゆとりをもって乗車していたため、特に乗車人数を見直して分散することはしなかった。

## 分析・課題

○重度の方が多く利用している中、各利用者の特性やそれぞれの相性等を鑑みながら、乗車位置・送迎ルートを決めているため、利用者17名に対して（3月末時点）、最大8人乗車可能なワゴン車4台を使用して運行している。極力、1時間内で各送迎車が回れるようにしているが、今後は、1台が2ルート回るなど、送迎に1時間以上かけて運行することも検討が必要。

## 8 運営管理業務

### (1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

### (2) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

### (3) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
※委員長	矢田部 正照	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委員	伊地山 和茂	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	武田 敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課長補佐
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	大久保 撰	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

### (4) 職員の資質向上

#### 結果の概要

○日頃のミーティングにおいて、適切な支援の在り方やヒヤリ・ハット事例の共有をした。送迎等で不在の職員もいるため、業務日誌に記録化することで、各職員がミーティング内容を振り返れるようにした。

- 発達障害や強度行動障害についての研修等には積極的に参加し、その研修報告や研修資料を回覧することで、参加していない他職員の知識向上にもなるよう努めた。
- 福祉作業所等連絡会での交換研修に関しては、感染症拡大に伴い不参加。
- 弁護士を招き全職員参加で行う準備をしていた虐待防止研修は、感染症拡大のため中止。

### 実績等

研修会等	主催
福祉施設経営研修	東京都社会福祉協議会
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
社会福祉事業従事者人権研修	東京都福祉保健局
摂食嚥下機能支援研修会	多摩府中保健所
発達障害の基礎研修	調布市福祉人材育成センター
移動・移乗の技術研修	調布市福祉人材育成センター
よい実践をふりかえる	調布市福祉人材育成センター
普通救命 AED 講習	東京消防庁
安全運転研修	トヨタドライビングスクール

※ 上記以外に、社協全体での研修等に参加

### 分析・課題

- 外部研修に参加した職員からの報告の時間を作りフィードバックを行った。
- コロナ禍の中、外部講師を招いての研修や、第三者に支援状況を見てもらう等を依頼することが難しくなるため、内部で取り組む職員研修の在り方に検討が必要。

## (5) 事業・建物管理

### 結果の概要

- 障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 建物管理を依頼している施工業者との確認により、必要な修繕を実施した。
- 新型コロナウイルス感染症対策に伴う修繕（空調など）を実施した。

## (6) 危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

## 9 地域への働きかけ

### 結果の概要

- 9月12日(土)に予定していた「第7回希望の家深大寺地域のつどい」は、新型コロナウイルス

感染症拡大防止のため中止とした。

○地域の自治会パトロールへの参加など、地域住民との交流を進めた。

### 分析・課題

○地域のつどいは地域住民と施設との交流を目的とし、利用者も楽しめる行事として行っていた。

感染状況にも左右されずに開催できる地域交流イベントの検討が必要。

## 10 その他

### (1) 個別支援・日中活動の充実

#### 結果の概要

○利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動や作業を行った。

○状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情を受けて延長利用の対応をした。

○コロナ禍の中、密にならず外出活動ができる近隣の外出先を新たに探した。

○利用者専用のネット環境を用意し、タブレットを導入して、利用者の余暇活動の充実に努めた。

#### 分析・課題

○感染症に配慮した活動を模索しているが、今後も、他者の少ない公園でのウォーキングや、室内での活動の種類を増やしていく必要がある。

### (2) 広報（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

### (3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

#### 結果の概要

○ボランティアや協力員により、利用者支援やプログラム活動のサポートをして頂いた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。

○大学からの社会福祉士実習生に対して、コロナ禍の中、支援場面に入ることは控えていただいたが、利用者が帰宅した以降の時間帯に受け入れて、施設内見学及び事業説明を行った。

○けやきの森学園の実習生は、緊急事態宣言により上半期の受け入れが難しかったため、下半期に集中しての受け入れであった。

### 実績等

行事・活動	人数	内容
地域のつどい【事業中止】	0人	
水泳教室	2人	利用者の付き添い
日帰り旅行体験【事業中止】	0人	

第3部 希望の家の運営

リフレッシュ活動【事業中止】	0人	
園芸作業	1人	園芸
体操・音楽・ジャンベ教室講師	4人	専門協力員
社会福祉士実習生	2人	施設内見学及び事業説明
府中けやきの森学園からの実習生	7人	進路検討のための体験利用
合計	16人	